

## 平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（京都府）

－ 予想収穫量（主食用）は6万9,900 tの見込み －

### 1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積（子実用）は1万4,500haで、うち主食用作付見込面積は1万3,900haが見込まれる。

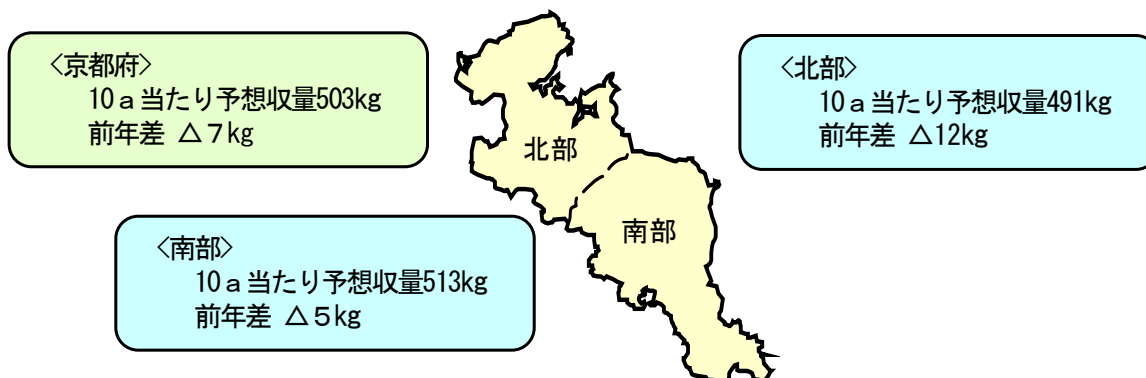
### 2 作柄概況

- (1) 全もみ数は、穂数がやや少なくなったものの、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。
- (2) 登熟は、出穂期以降、8月下旬にかけて、気温及び日照時間がおおむね平年を上回ったものの、9月上旬以降は、日照時間がおおむね平年を下回って経過したことから「平年並み」が見込まれる。
- (3) これらのことから、10月15日現在の10a当たり予想収量は503kg（前年産に比べ7kg減少）が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は98となる見込み。
- (4) 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、南部は513kg（前年産に比べ5kg減少）、北部は491kg（同12kg減少）が見込まれる。
- (5) 被害は、山間部を中心にシカ及びイノシシによる獣害等の発生がみられる。

### 3 予想収穫量

以上の結果、予想収穫量（子実用）は7万2,900 t（前年産に比べ2,100 t減少）が見込まれる。うち、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は6万9,900 tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（10月15日現在）



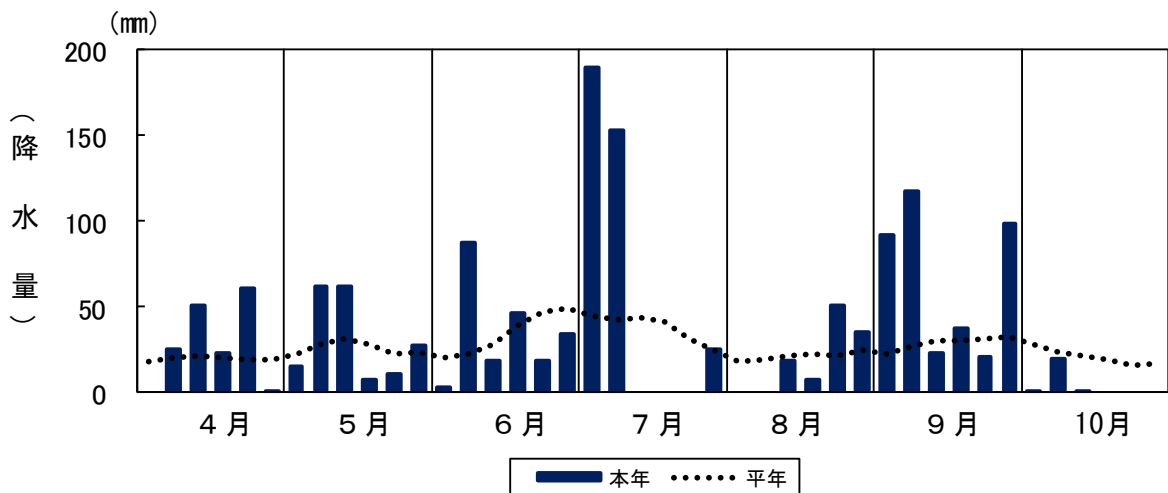
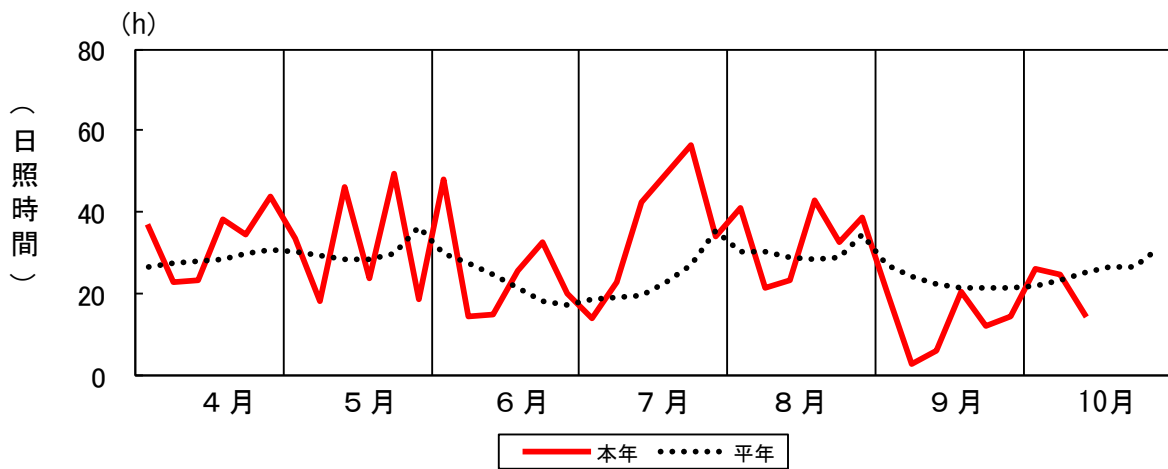
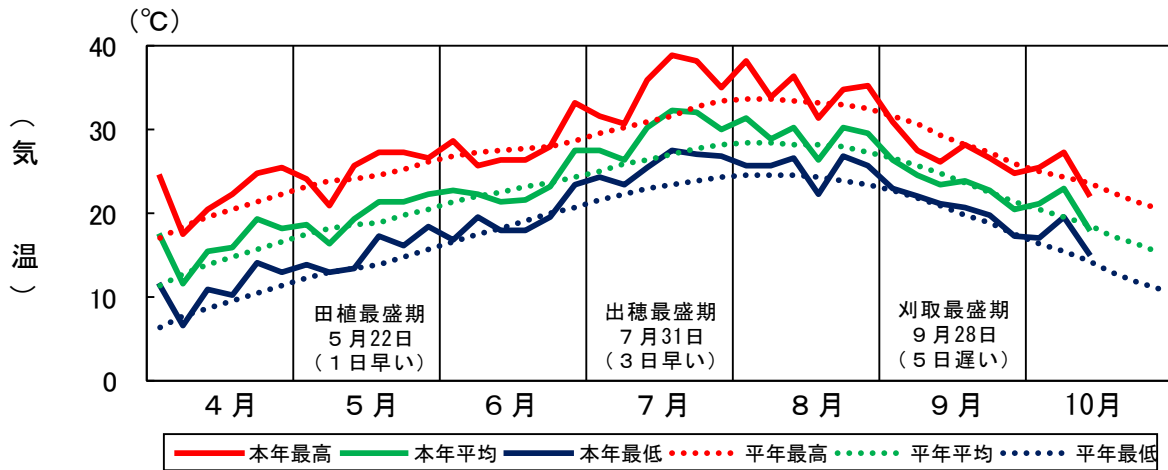
- 本調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終わっていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。
- この資料は、「平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（近畿）」（平成30年10月31日公表）の補足資料として作成したものである。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

【参考】

京都府（京都市）の気象



資料：気象庁『アメダスデータ』

注： 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、府平均の期日である。

なお、（ ）は、対平年差である。

【お問合せ先】

近畿農政局 統計部 統計調査チーム（京都府担当）

電話：（代表）075-451-9161 内線 2664

（直通）075-366-2005

FAX： 075-451-0079